わくわくするみさとの「暮らし、楽しみ、しごと」を語り合いました！

9月21日(土) 13:00～17:00

会場　西郷ニューホープセンター(NHC)

プログラム

- はじめに
- 講演「住み続けたくなるまちの魅力とは」
- ワーク１“わたしらしい生活を検討してみよう”
- ワーク２“美郷町がどんなまちだったらわくわくするか考えよう！”

　ー　休憩　ー

- 対話のエクササイズ“ポジティブ変換”
- ワーク３“10年後の未来日記を描いてみよう“”

はじめに

美郷町政策推進室の菊池さんから、事業概要とワークショップの位置付けを共有しました。そして、天候不良で開催できなかった第１回と第２回をぎゅっと詰め込んだ4時間のプログラムの流れを説明しました。

町長あいさつ

2006年に南郷村、西郷村、北郷村が合併し美郷町が誕生しました。合併をしてよかったと思えるようなまちづくりを進めていく必要があります。10年後の美郷町はこうありたいという理想を掲げ、理想に向けたアクションプランをつくりたいと思っています。そして、町と町民それぞれが実行していくことが大事です。ビジョンを掲げることで、進路がイメージでき、さまざまなことが進めやすくなるでしょう。美郷町が生活しやすく、楽しく暮らせるまちとなるように、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

住み続けたいまちの魅力とは

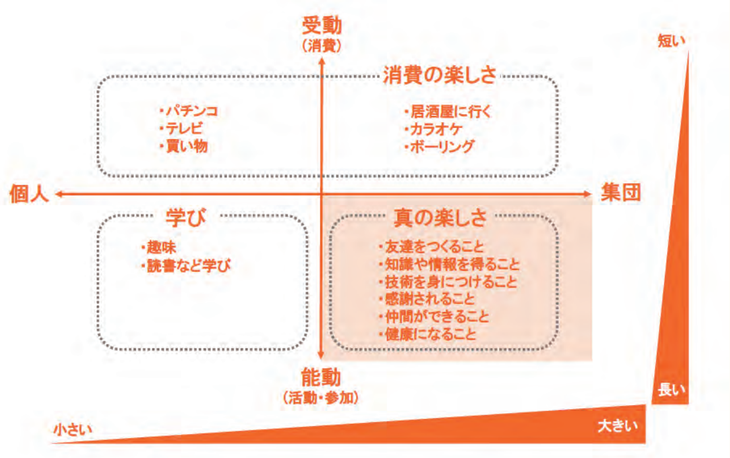
美郷町における「暮らし、楽しみ、しごと」について考えるにあたり、studio-Lの醍醐さんから、これから意識しておく必要がある視点や、それらに関連した他地域の事例についてお話がありました。

「経済活動」を広い視点で考えてみる

「住み続けたいまち」について考えるとき、「地域経済循環」という考え方が必要だという話がよく出てきます。これは、地域でのお金のやりとり(分配・生産・支出)をできるだけ地域の中で循環させ、大都市など地域外へのお金の流出を少なくすることが大切だとする考え方です。美郷町においても、できるだけ地域のお店で買い物をして、地域での起業や生産性を高めることなどによって、地域経済循環を進めていくことは必要だと思います。でも、美郷町の「住みよさ」にとって大切なことは、お金を介した消費的なやりとりだけではないようにも思います。美郷町にはこの地域ならではの「お互いの顔の見える関係」(面識関係)があり、そこに多様で価値のあるやりとりが今も存在し、これからのまちづくりを考えるうえでも大切な視点だと感じています。

多様な「儲け」と「楽しさ」について

面識関係でのやりとりには、例えば、ご近所での醤油の貸し借りや、子どもや高齢者の送迎のお手伝い、地区の清掃活動、お祭りの継承などがあります。これらを通じて、私たちは多様な「儲け」を得ています。それはお金ではないかもしれませんが、感謝や、生きがい、仲間、役割、学び、健康などを得ているように思います。私たちの生活や人生、さらには地域づくりについて考えるとき、これらの多様な「儲け」についても認識しておく必要があります。また、「楽しさ」も大切な視点になります。真の楽しさ(大きくて長続きするもの)とは、誰かから与えてもらうもの(受動的・消費的)ではなく、自らつくりだすもの(能動的・活動的)であり、個人より集団であるほうがより高まるという研究があります。そして、これはまさに多様な「儲け」を得ることにもつながります。



ほどよいつながりが生み出す循環の取り組み

島根県海士町

日本海に浮かぶ離島の海士町では、この島に移住した若者たちが、地域に増えて課題となっている空き家や蔵の中の整理を手伝う活動をはじめました。そこで見つけた家具や器を地域内で循環させるために、古物商の免許を取得して古道具屋を起業しています。マルシェでの出店なども行い、得られた利益は地域活動の資金にも活用しています。

鹿児島県宇検村

奄美大島の宇検村は各集落間の距離が大きく、高齢化もあいまって日常的に買い物に行けないという課題があります。平田集落では地域住民の話し合いを重ねる中で、大型車で地域住民が「買い物ツアー」に出かける活動をはじめました。ツアーを通じて高齢者がランチを楽しんだり、会話の機会が増えるなどの福祉的な効果も生まれています。

群馬県富岡市

富岡製糸場で有名な富岡市では、世界遺産選定後の観光客の一時的な増加と、その後の減少を見据えたまちづくりが進められてきました。富岡市民が自ら楽しさを生み出す活動を展開し、来訪者にも参加してもらう数多くのプログラムを生み出しました。富岡内外の人たちが面識関係をつくり、「また会おうね」と言い合える活動を進めています。

「賢い人」と「欲しがる人」

顔の見えない他者からお金を介して楽しませてもらう地域と、顔の見えるほどよい関係から自分たちで楽しさを生み出す地域、皆さんはどちらを選びますか？人間は「ホモ・サピエンス」(賢い人)です。しかし、私たちは広告の影響も受けて「ホモ・デシーデレンス」(欲しがる人・造語)になってないでしょうか？あなたは「賢い人」ですか？

わたしらしい生活を検討してみよう！

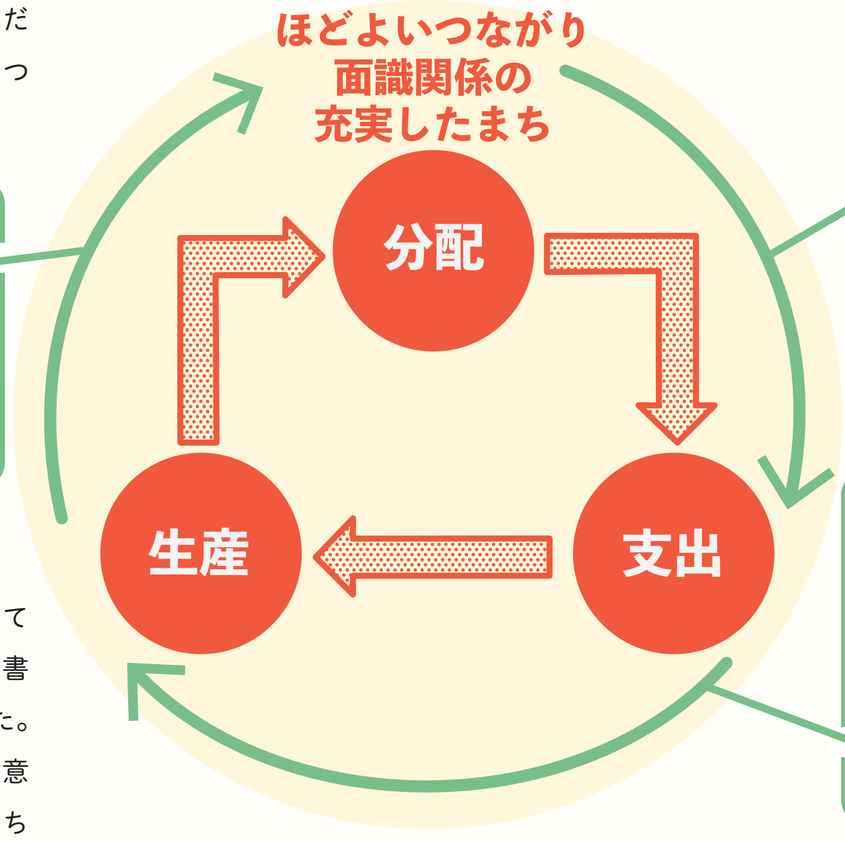
生きていく上で、「絶対に必要なもの・こと」と、「自分らしい暮らしをするのにあるといいな」というものを書き出す「わたしらしい生活検討シート」を参加者それぞれが記入していきました。シートには、必要なものやあるといいものに月どのくらいお金がかかるか、また、お金じゃないもので賄える場合はそれも記入していきました。シートに書き込んだ内容をテーブル内で自己紹介しながら共有していくとともに、講演内容の感想や気づきについても意見交換しました。

美郷町がどんなまちだったらわくわくするか考えよう！

ヒアリングで見えてきた、お金を介した消費的なやりとりだけではない、美郷町らしい広い視点でとらえた、ほどよいつながりが生み出す経済循環の取り組みを紹介しました。

楽しみや資源を生み出す取り組み

- 夜に地域で時間を過ごせる楽しいお店をやりたい
- 廃棄される栗や金柑の活用
- 地域のみんなで集まって交流できるような拠点
- トレイルランコースを活用したい（九州自然歩道）



地域でシェアする取り組み

- 公民館を「お試し滞在住宅」として活用
- 新しい事業を立ち上げるノウハウを地域で蓄積するしくみ
- 子どもたちが地域のことを学ぶ「美郷塾」のような取り組み
- 地域の野菜（あまりもの）が買える（手に入る）場所やしくみ

地域で支え合う取り組み

- ちょっとした手伝いを依頼しあえる人材バンク
- 地域や仲間同士共同で運営する田んぼや畑、農業
- 美郷を好きでファンになってくれる地域外の人たちの力で、コミュニティや伝統を維持していくしくみや取り組み

グループトーク

美郷町がどんな町だったらワクワクするかイメージしてカードに書き込んでいきました。その後、テーブル内で書き込んだ内容を一人ひとり発表し、共有していきました。そして、どんなことにわくわくするか、模造紙上で似た意見をまとめてグループにしていくなど、わくわくするまちのイメージを整理していきました。

対話のエクササイズ“ポジティブ変換”

ワークショップでの話し合いには、楽しく対話をしながら取り組みやアイデアを考えるためのコツがあります。その一つがネガポジ変換。課題（短所）と魅力（長所）は表裏一体。ネガティブなこともポジティブに変換すると、思いがけないアイデアにつながることも。「人口が少なくなってきた」「買い物できる場所が少ない」など地域の課題をポジティブ変換する練習をしました。

10年後の未来日記を描いてみよう！

グループトークで出し合った、わくわくするまちのイメージを整理し、6つのビジョンにまとめました。気になるビジョンテーブルに席替えして、そのビジョンについて意見交換した後、10年後の未来日記を参加者それぞれが描いていきました。

地域のみんなでシェアするしくみのある町

美味しい栗おはぎの作り方を地域のおばあちゃんから教わるような、得意なことや技術を地域の先輩から若い人が学べるように、また、若い人から先輩に教えられることもあるので、そんな暮らしの知恵や考え方を交換し合う場ができたらいい。そして、暮らしの土台となる自然環境、特に美郷町は川の文化が特徴なので、子供も大人も学び、そんな文化をつないでいくことが大切だと話しました。

地域で学び合い楽しみを共有できる町

町外から来る釣り人のみなさんと一緒にヤマメの産卵床づくりをしたい、パパイヤと葡萄づくりにチャレンジしたい、キャンプサイトを立ち上げ、若い人たちと交流して一緒にお酒を飲みたい、町外からお手伝いを続けている渡川地区の神楽に、友人たちが町外から遊びに来ている未来など、町内そして町外の人たちと交流し、それぞれがそれぞれの楽しみを満喫できる美郷町の未来のイメージを語り合いました。

集まるしくみと場所がある町

図書館に興味がある人が集まりました。図書館がハードとして素敵になると同時に、図書館を使いこなせる人をたくさん増やしていきたいという意見が出ました。未来日記では、田代小学校を活用した体験型図書館、かつての地蔵大学のような取り組みなど、学びの場ができているイメージや、コーヒーをゆっくり楽しむ暮らし、10年後の普通の素敵な日常、二拠点生活など、さまざまな未来が描かれました。

美郷のものが町内で買える、つくれる、体験できる町

林業や農業、炭焼きに関すること、地元でものを生産している視点からの意見がありました。その中で、普段の生活で買い物をどうしていくのがいいか、町に出るという楽しみもあるので、バランスも大事だという意見もでました。未来日記では、山を豊かにして行く取り組み、地域での野菜販売、木をふんだんに活用した暮らし、30年、炭焼き指導の取り組みを続けいるなど、素敵な未来が描かれていました。

地域の支え合いが充実した町

高齢者だけでなく、産後や子育て、怪我をしている人など、支え合いが必要な人はたくさんいます。小さなお困りごとを手伝ってもらえるしくみ、ネットショップを高齢者が楽しめるような支援、欲しいものリストをつけるとついでに買ってきてもらえるしくみなど、さまざまなアイデアを話し合いました。そして、地域の支え合いで10年後も変わらずきれいな山川を維持していきたいという未来日記が描かれました。

子どもたちが憧れる町

観光農園がしたいが、今できることを少しずつ始めて次につなげていくことが大事だという意見や、子どもも親もみんなが楽しめる地域の遊び場、歌を歌ったり、時には料理教室など、町外からも集客できるような場をつくりたいという未来日記が描かれました。そして、義務教育学校のしくみをいかして、地域と学校が一緒になって子どもたちを育てていけるような開かれた魅力ある学校づくりについて話しました。